

〈概要版〉令和元年（平成31年）秋田県観光統計について

秋田県 観光文化スポーツ部
観光戦略課

1 観光地点等入込客数（延べ人数）の状況

○観光地点等入込客数は3,527万人で前年比2.3%の増加

前年比較で約79万人の増加（平成30年：約3,448万人）となった。

- ・前年にリニューアルした道の駅ふたついの入込が好調なことに加え（+59万人）や秋田犬の里のオープン（+28万人）や、かまくら（+15万人）での入込増加が主な要因である。

※観光地点数は、平成30年：405地点、令和元年（平成31年）：402地点と、3地点減少している。

2 延べ宿泊者数の状況

○延べ宿泊者数は365万人で前年比4.3%の増加

前年比較で約15万人の増加（平成30年：約350万人）となった。

- ・延べ宿泊者数の増加率は、東北6県中3位（1位：福島県、2位：宮城県）であった。
- ・県内在住者が減少しているものの（-80千人）、県外在住者が大きく増加（+17万人）している。

3 【外国人】延べ宿泊者数の状況

○外国人延べ宿泊者数は13万9千人で前年比12.9%の増加

前年比較で約1万6千人の増加（平成30年：約12万3千人）となった。

- ・外国人延べ宿泊者数の増加率は、東北6県中5位であった。
- ・国籍別で見ると、台湾とタイで最も大きく増加（+3千人）しており、次いで中国（+2千人）となっている。

※外国人宿泊者数の国籍別内訳については、従業員10人以上の施設にかかる数値を用いている。従業員10人未満の施設を含む全施設における外国人宿泊者数については、国籍別の内訳が公表されていない。

4 観光消費額の状況

○観光消費額は約1,179億円で前年比5.3%の増加

前年比較で約59億円の増加（平成30年：約1,120億円）となった。

- ・観光消費額単価（パラメータ調査および観光庁からの提供データから算出される）が前年に比べて増加したことから、観光消費額も増となっている。
- ・宿泊客にかかる観光消費額については、入込客数が減少したものの消費単価が増加したことから大きく伸びた（+61億円）。一方で、日帰り客については入込客数の減少により観光消費額が減少（-2億円）となった。

5 満足度の状況

○ほぼ全ての項目で、「満足」「やや満足」と答えた人の割合が約8割を占める。

調査項目は「全体」、「宿泊」、「接客」、「情報提供」及び「アクセス」の5項目
※回答選択肢は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4つである。

- ・いずれの調査項目も例年と同様の傾向を示しており、「情報提供」と「アクセス」について不満またはやや不満と回答された割合が高かった。現在の調査票では、具体的にどのような点に不満を抱いたかまでは分からないため、今後の調査に向けた課題である。

（参考1）調査方法等の変更

平成23年から調査方法を観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいて変更したため、平成22年以前のデータとは単純比較できない。

（参考2）観光消費額の推計

観光消費額の推計は既存の複数の統計調査を活用して補正、推計しているため、「観光地点等入込客数（延べ人数）の状況」や「延べ宿泊者数の状況」と「観光消費額の状況」の増減の割合は必ずしも一致しない。

（参考3）観光地点パラメータ調査の調査地点変更

平成28年調査から、県内11カ所のパラメータ調査地点を5地点変更した。